
スリーピース

モリノツグミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スリーピース

【Nコード】

N3446E

【作者名】

モリノツグミ

【あらすじ】

軽音楽部の理花は新入部員によって身に覚えのない三角関係になりかける。本作品は理花から見た観察恋愛物です。

(前書き)

原稿用紙三枚で書いてみました。短編のシリーズものにしていければと思っています。

久々に部室に入ると、テツオの横に知らない女の子が居た。

「お、小林、紹介するよ、新しく入って来た佐藤さん。経済の一年だつて」

「佐藤さん」はわざわざ立ち上がって私にお辞儀をした。「経済学部一年の佐藤優子です。よろしくお願いします」

「あ、私、文学部二年の小林理花です、よろしく」

「佐藤さん」につられたように私も頭を下げた。

私は高校からベースを始め、

「日本の音楽シーンの中心」である東京に憧れるようになった。

いずれはプロに、とは思っていなかったが、最新の音楽に触れていたかったのだ。

「東京は危ない所だから」と反対する両親を説得し、自分の頭で入れる大学を探して東京に力尽くでやってきた。

音楽好きが多いだろうと入った軽音楽部は、

「音楽好き」という点では共通していたが、ジャンルはそれぞれ様々だった。部室での居場所はジャンル別に自然と決まり、趣味の合うテツオの隣が私の

「指定席」になった。その

「指定席」に座り、いつもの如くタバコに火を点けた。吸い始めたのは前の彼氏の影響だ。季節を一つ跨いであっさり終わった。

初めての恋人ではなかったが、愛情が磨耗することを知り、男は去り、タバコだけが残った。

テツオは私と音楽の趣味が似通っているが、ドラムを叩ける人間が部内に少ないので、どのジャンルからも引つ張りダコである。

ジャンルによっては、紫の口紅を塗らなければならなかったり、

衣装が決まっていたりと忙しそうだった。

いつもの様にテツオと雑談していると、やたらと誰かの視線を感じる。さっきの佐藤優子が他の人と話しながらこちらを窺っている。その理由はすぐに分かった。彼女はテツオのことが好きなのだ。そして、私に対しては警戒と牽制の視線を投げ掛けている。

彼女の視線には色が付いていた。

テツオを見る時は暖かいピンク色、私を見る時は凍てつく様な鉛色。

「私のテツオを盗らないで」と言っている様だった。

彼女にすれば私は

「突如現れたテツオと親しい得体の知れない女」なのだろう。先に部に入ったのは私なのだ。

二人はCDの貸し借りを通じて（テツオが貸すばかりだったが）共通の話題を増やし、徐々に親密に成って行った。

彼女が私とテツオの間柄を

「ただの音楽友達」だと理解し、鉛色の視線も少し和らいだ。

彼女のテツオへの日に日に色濃く、情熱的に見え、私はそんな彼女が幸せそうに見え、少し羨ましくなった。

私は部室での彼女を横目で見ながら、

「私も恋でもしようかな」と次のタバコに火を点いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3446e/>

スリーピース

2010年12月28日14時29分発行